団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	NPO法人 ビオトープ・イタンキ in 室蘭		
代表者	大西 勲	担当者	(同左)
所在地	〒050-0085 北海道 室蘭市 輪西町 2丁目12-5 TEL: 0143-43-5253 FAX: 0143-44-4837 E-mail: ohie_biotop_itanki@yahoo.co.jp		
設立の経緯 ／沿革	<p>平成10年 活動スタート。 失われゆく室蘭の湿原の生き物を集め、繁殖・保存を試みる。</p> <p>平成14年 任意の会「ビオトープ・イタンキの会」発足。 子ども達の自然体験と湿地再生を両立させる「獲物のあるビオトープ」の実現を行政に働きかける。</p> <p>平成17年 NPO法人として認証・登記。</p> <p>平成18年 現地での造成可能になる。</p> <p>平成21年 水域造成は約1000㎡となり、ほぼ計画の50%の進捗となる。</p>		
団体の目的 ／事業概要	<p>身近な自然を復元し「獲物のあるビオトープ」を作ることにより、子ども達の健全な生長と郷土の緑化に寄与することを目的としています。</p> <p>子ども達が小さな生き物にかかわるということは、現実にはその生き物を死なせてしまうことがほとんどです。しかし、このことの積み重ねの中からこそ命のはかなさと大切さが理解されてゆきます。</p> <p>現地での造成が可能となった平成18年以降は、子ども達の参加を得て、新しくできた池にオタマジャウシや淡水魚を放流したり水生植物を植えつけるなどして自然回復の促進を図りました。回復が進むにつれ、自然体験学習や観察会が可能になってきました。</p>		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	<p>活動のスタートは平成10年まで遡りますが、なかなか行政の理解を得ることができず、長い準備期間がありました。</p> <p>平成18年「公園施設設置の許可」が出るようになりましたが、「許可」は予算措置を伴いませんので、寄付・助成を仰ぎながら事業を進めてきました。平成18年15㎡、19年300㎡、20年400㎡、21年200㎡の浅い池・水路の造成を行い計画のほぼ50%の進捗となりました。</p> <p>自然の回復は順調で、繁殖した淡水魚トミヨを狙ってカワセミも姿を見せるようになりました。数十名の小学生が長靴にアミを持って参加する自然体験学習やトンボの羽化、ホタルなど季節のテーマに沿って当NPOが呼びかける観察会も次第に受け入れ可能になってきました。また、トンボや魚が捕れるという話が伝わって、アミを持った親子連れの訪れも増えてきました。</p> <p>子ども達が自由に遊びかつ採集もできる「獲物のあるビオトープ」が実現しつつあります。</p>		
ホームページ	http://biotope-itanki.hp.infoseek.co.jp/		
設立年月	平成 14年 5月	* 認証年月日(法人団体のみ)	17年 1月 21日
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H20)	円
組 織	<p>スタッフ/職員数 名 (内 専従 名)</p> <p>個人会員 52名 ; 法人会員 2名 ; その他会員(賛助会員等) 15名</p>		

政策のテーマ 「獲物のあるビオトープ」づくりを進める

■政策の分野 ④自然環境の保全

・
・

■政策の手段 ⑤施設等整備

・
・

⑧環境教育の推進

団体名：NPO法人

ビオトープ・イタンキ In 室蘭

担当者名：大西 勲

■キーワード	獲物のある	ビオトープ	子ども達の	環境教育	生物多様性保全
--------	-------	-------	-------	------	---------

① 政策の目的

近い将来、温暖化の影響が顕著に現われてくる困難な時代を生きることになる現在の子ども達に対し、自らも地球生物の一員であることをあらためての実感する機会をつくることにより、彼らが困難克服の力を得る一助とする。

② 背景および現状の問題点

提言募集の文にも有る通り「地球温暖化の問題は人類にとって最大の課題である」ことは今日共通の認識となってきつつあります。しかし、この課題の「解決策」については認識共有とは程遠い現状です。将来の痛みを実感できないことが原因ですが、政治・経済の分野に身を置く人々に特に酷いものがあります。近い将来、影響がさらに顕在化し、否応なしに「対策」を迫られる困難な時代を生きることになる子ども達が今置かれている状況について、上記の政策分野に限定して問題提起します。

子ども達が身近な自然に接する機会がますます失われてきています。進行する都市化と都市部への集中により、子ども達の周囲から自然が失われてきていることが原因です。さらにテレビゲームなどバーチャルな体験が生活時間の大きな部分を占めるようになってきています。これまでも学校での「トンボ池」や「ビオトープ」が推奨されてきましたし、それなりに効果を上げてはきましたが「見るだけよ！捕っちゃだめよ！」というものでは、子ども達の五感に訴えるためには全く不十分と言わざるを得ません。

③ 政策の概要

この対策の一つとして「獲物のあるビオトープ」づくりを進めることを提言します。

具体的には、各地の実情に合わせて対応すべきですが、小学校が数校から十数校程度のエリアに一か所程度、適地に一万から数千㎡規模のビオトープを作ります。造成など基盤整備は行政の仕事ですが、再生する自然の具体的な内容の決定や維持・管理等は各地の自然保護団体が指導を担当します。

もともとその土地にあった自然は再生力が強いので、子ども達が自由に遊びかつ採集しても十分に再生します。現在、絶滅が危惧されている種の多くも繁殖力が弱いだけでなく、繁殖の基盤となる「土地そのものを奪われた」ためであり、環境が準備されるのであれば、子ども達の遊びに十分耐えることができます。それには、子ども達の入込み数に応じた広さが必要であり、生き物の繁殖・再生のためにも、まとまったある程度の広さが必要であって、これが「一万から数千㎡」規模の広さです。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

実施には以下のような諸問題が考えられます。

- 1) 土地の確保
- 2) 再生する自然の具体像の策定
- 3) 造成工事
- 4) 自然再生の活動
- 5) 利用と維持

1) 3) は行政が中心になって解決すべき項目ですが、目的からいって「土地」は繁華な平地である必要はなく、河川敷や公園なども含めて各地の実情に合わせて選定すれば良いことです。造成は規模が大きいので業者施工になりますが「箱もの」に比べれば費用は十分の一以下です。

2) 4) は、その地方ですでに自然保護などに活動している人々が中心になるでしょうが、組織化の面で行政の協力が必要なケースがあるかも知れません。

その地方にもともと有った自然の再生は、準備の段取りがつけばあとは文字通り「しぜんにふえて」ゆきます。時間と人手はかかりますが、予算はあまりかかりません。趣旨に賛同してボランティアで活動してくれる人も多いと思われます。

5) は小学生の子ども達の「自由な遊びと自然体験学習」です。遊びによる「荒れ」は黒子役のサポートが有れば一層速やかに回復します。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

既存のもので適切なものは無いと思われますので、自然保護団体などその土地・地方の「自然」に詳しい人々を取り込んだ形で予算執行できる組織が必要になるでしょう。NPO法人が受け皿になり得るケースもあるでしょう。

土地の確保や造成工事など予算措置の必要な部分を除けば、これら自然に関心の強い人々の協力は不可欠であり、また、方針が示されれば、ボランティアを含め進んで参加してくれる個人、団体は多いと思われます。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

将来への教育的効果を目的としている提言ですので、文字通りの「具体的効果」を書くことはできません。

子どもの頃に身近な自然に接することなく成長することにより失われるもの、家庭内でのこと、教育現場でのこと、報道される事件等に関すること、様々な場面で多くの人々により多くのことが語られ、身近な自然の必要性が言われています。

いま「地球温暖化の問題が人類最大の課題であることが共通認識」となってきたとき、この視点から「身近な自然回復」の問題を捉えてみることも必要です。

気候変動に関する「問題の存在」については共通認識にはなってきたとしても、その「解決策」については認識の共有には程遠い現状です。68億を突破して増え続ける世界の人口が80億に達するころ、「顕在化」の深刻化により「強い」対策が迫られることとなります。まさにグローバルな変化の中で、日本も独り変化をまぬかれることはできません。この困難な時代を生きることになるのは、現在の子ども達であり、それに続く世代です。

多くの対策が必要とされるであろう中で、前記の「政策分野」についての一つの提言です。**「獲物のあるビオトープ」で身近な自然に接しつつ生長することが、自らも「地球生物の一員」であることの実感を育み、この困難な時代を生き、困難を解決してゆくことの一助となるでしょう。**これが期待される効果です。

身近な自然の喪失は北海道にあっても深刻なものがあります。歴史を逆転させるのではなく、現実の中での一つの提言が「獲物のあるビオトープ」です。

従来も行われてきたビオトープ作りとの違いは、子ども達の五感に訴えるために、トンボ捕り、魚すくいをやって「手で捕まえる」「獲物のある」ことに力点を移すことです。そのためには回復可能な規模が必要になります。

⑦ その他・特記事項